



作品名：「幻想」 撮影：儀間朝義さん

## 目次

- ② 特集「福祉・介護分野における人材確保と職場定着」
- ④ もっと楽しもうニュースポーツ
- ⑥ 赤い羽根共同募金運動がスタートします。
- ⑦ カントリーミーティング in 沖縄 報告
- ⑧ シリーズ活動最前線  
「こども家庭リソースセンター沖縄」
- ⑧ ほっとニュースTOPICS
  - ・コミュニティソーシャルワーク研究会が発足
  - ・高円宮妃殿下が事業所を御訪問
  - ・求職登録者紹介システムがバージョンアップ
- ⑩ 福利厚生センターからのおしらせ
- ⑪ 介護の日記念 認知症特別講演会

「福祉情報おきなわ」の作成経費の一部として共同募金配分金を使用させていただいております。

# 福祉・介護分野における人材確保と職場定着

福祉・介護分野の雇用情勢をめぐり、人手不足や離職率の高さ、処遇の低さを指摘する声は少なくない。

平成19年度に「福祉人材確保指針」を見直して以降、さまざまな対策が講じられている一方で、失業者に対する雇用の受け皿としての期待も寄せられている。本号では、沖縄県社会福祉協議会（県社協）が行う福祉・介護分野における人材確保と職場定着に向けた取り組みを紹介する。

## 雇用拡大と人材の 安定的確保に期待

少子高齢化の進行や失業者の増大といった社会背景を受け、



需要の増大が見込まれる福祉サービス分野における雇用の拡大が期待されている。

一方、質の高い人材の安定的確保と職場定着は福祉・介護分野において大きな命題となっている。人材難が続けば、組織内における理念や技術の継承が難しくなるだけでなく、運営基準を満たせないことによる利用定員の削減、男女比のアンバランスから同性介助が難しくなるなど、サービスの質への影響も懸念される。また、近年の介護保険制度や障害者自立支援法の見直しによる報酬改定では、人員配置への加算が設けられており、人材確保が事業収入にも直結するようになってきている。このよう

に、福祉・介護分野における人材の確保や職場への定着は福祉業界にとって急務であると言える。

そこで、厚生労働省では、昨年10月に「介護職員処遇改善交付金制度」を創設し、職場内における処遇改善に乗り出した。

沖縄県社協でも、沖縄県が展開する「みんなでグッジョブ運動」と連携して、県社協が運営する「福祉人材センター」における福祉の職業相談、職業紹介等にも力を入れている。また、昨年度より、県から委託を受けて「福祉・介護人材マッチング支援事業」（以下、マッチング支援事業）をスタートさせている。

## マッチング支援事業とは

マッチング支援事業は、福祉・介護現場における人材不足の解消や従事職員の定着率・資質の向上を図ることを目的とする事業である。

事業の開始に伴い、県社協では5人の「キャリア支援専門員

（以下、専門員）を配置し、県内の福祉施設・団体を訪問し、雇用に関するニーズや課題の把握を行う「巡回訪問」をはじめとする関連事業を展開している。また、雇用分野の専門家（アドバイザー）や関係機関と連携して必要な支援を行っている点も特徴である。

## 「ひと」に関する 雇用サイクル

マッチング支援事業では、就職を希望する者、人材を募集する事業所、職場で人材育成にあたる職員等それぞれに対し、総合的に支援を行っている。

雇用に関係する「ひと」への支援を、①「募集」、②「面接」、③「採用」、④「入社」、⑤「就業」、⑥「退職」の6つのポイントに整理し、①から⑥までの循環を「ひと」に関する雇用サイクルとして捉え、それぞれの場面に適した支援を通じて、事業所や個人と一緒に課題解決を図っている。（イラスト参照）

## 具体的支援の実際

巡回訪問では専門員が事業所で取り組まれている人材確保、職場定着、人材育成に関する現状や課題の聞き取りを行い、事業所側からの要請があれば、課題に対応する支援について検討を行う。このとき、専門員は一方的に指導する立場ではなく事業所側と一緒に考えて考えることで、事業所の主体性を尊重し、意識高揚を促すねらいがある。必要に応じてアドバイザーの助言を得ながら、独自の支援案を策定していく。



▲「ひと」に関する雇用サイクルイメージ

とに専門相談や職員研修等を実施し、人材の募集から面接・採用、入社時の職員教育、就業後の実践的講習、さらには退職を未然に防止するための対策等の実施をサポートしていく。その後、支援の評価を行ったうえで新たなニーズがないか聞き取りを行うことで継続的支援を行っていく。そして、この一連のサイクルを通じて、事業所が自ら職場内の環境改善を図り、有能な人材の確保、職場への定着、職員の資質向上が実践できるよ



▲アドバイザーによる出前研修の一コマ

う目指す。以上が、マッチング支援事業の支援内容である。

### 働きがいのある 職場づくり

新たな人材の掘り起こしと併せて、雇用している職員に長く継続して働いてもらうことも大切なポイントである。離職率を減らし職場への定着を促すためには職員の働く意欲の向上と、働きがいのある職場づくりが不可欠であると言われている。福祉・介護分野における離職の原因は「低賃金」にあると一般的に言われているが、それだけで

### 組織力を高める視点も

職場内の環境を整え、職員の意識高揚を図るには、組織（チーム）の持つ力を引き出す視点が大切である。なぜなら施

なく、職場内の人間関係や、働く意欲の阻害に起因するケースも少なくない。福祉関係者、とりわけ社会福祉事業の経営者は積極的に職場の環境改善と、職員の意識高揚に取り組む必要がある。

うるま市にある特別養護老人ホーム与勝の里（長浜君子施設長）では、マッチング支援事業



が行うメニューのひとつ「職場定着支援モデル事業」の指定を受けている。職員の定着率アップに向けた労働環境の改善および職員の資質向上を支援するため、職員研修会や先進地視察等を実施している。

この日は北九州市社会福祉研究所の田中隆雄主席講師を迎え、「福祉現場における組織人として」と題した講話があり、職員40名あまりが参加した。（上写真）

## モデル事業 現地レポート

### 与勝の里（うるま市）

その中で田中氏は「職員一人ひとりが組織のために『何ができるのか』を考え、自分の持ち味を生かして働くことで、職場や仕事が楽しくなり、その結果、利用者に良いサービスを提供することにつながる。」と述べ、職員の自律性が組織を強くすることを強調した。ユーモアを交えながら職員の「やる気」を刺激する田中氏の話に、参加した職員の表情が明るくなってくるのが伝わった。

この事業に期待する効果について、長浜施設長は「職員の意識を高めることで、『気づき』を促したい。研修を報告だけで終わらせず、その成果をフィードバックして現場で生かせるような仕組みづくりが必要だと思う。利用者や家族から喜ばれるサービスを目指して職員全員が一つの方向性に視点を合わせることができた。」と語り、モデル指定を契機にさらなる職員の資質向上を図りたい考えだ。今後、モデル指定終了の今年度末まで継続的な支援が行われる。

設や事業所の福祉サービスは全て組織（チーム）を通じて提供されるからである。チーム内の職員一人ひとりが役割や責任等を自覚し、円滑な連携や協力関係を築くことができれば、チームはうまく機能し、職員もその能力を最大限に発揮することができる。

また、一つの目標に向かってリーダーを中心にメンバー全員で協力、連携を図る過程では活発なコミュニケーションが交わされ、これにより風通しの良い組織風土が醸成される。

さらに、意思疎通のとれた組織においては目指す経営理念を組織全体で共有できるほか、問題意識が高まり、日々の業務で気づいた改善点を組織全体に浸透させることも容易になる。

こうして、職員一人ひとりがやりがいを感じ、働く意欲に満ちた職場となれば、結果として、人材の確保と職場への定着という課題もクリアされるものと期待される。



# もっと楽しもう！ ニュースポーツ

今年も 用具の無料貸し出しを行っています

「ニュースポーツ」は、子供から高齢者まで年齢を問わず、いつでも、どこでも楽しく簡単にできるスポーツです。

いきいき長寿センターでは高齢者の健康・生きがいづくりの一環として、以下のニュースポーツの普及を目的に用具の貸出を行っています。

新しく用具も増えましたので、是非この機会に地域活動や世代間交流などに御利用ください。

## シャフルボード

得点部分を狙って細長い棒(キユ)で円盤(ディスク)を押し出すように滑らせ、合計得点を競うゲーム



## インディアカ

羽根のついたボールをバレーボールのルールに準じて素手で打ち合ゲーム



## ソフトバレーボール

ソフト化したボールをネット越しに打ち合うゲーム

## グラウンド・ゴルフ

スタートからホールポストにできるだけ少ない打数でホールに入れて、合計打数の少ない方

が勝ちとなるゲーム

## 輪投げ

的棒に向かって輪を投げ入れるゲーム

## ボックスホッケー

相手ゴール(ボックスの両端の穴)を目指して、パックをシュートしあうミニホッケー



## ペタンク

木製の小さなビュツト(目標球)に金属製のボールを投げ



ボールを投げあひ、より近づけることによって得点を競うゲーム

## ゲートボール

2チーム対抗の団体ゲーム。1チーム5名で、自分のボールをスティックで打ち、第1ゲート、第2ゲート、第3ゲートを順番に通過させ、最後にゴールボールに当たると上がりとなる



## オーバルボール

卵形の円球を前方の得点ゾーンに入るように転がしていくゲーム

## ユニカール

特殊なカーペットの上でストーンを滑らせるように投げ、円形の目標地点により近づけることを競うゲーム



## ターゲット・バードゴルフ

ルールはゴルフに準じている。シャトルボールはパドミントンの羽根をゴルフ



ボールに取り付けたような形状。ネットホール(ゴール)はパラ

ソルを逆にした形状なので、シャトルボールをふわりと高く打ち上げる技術が必要

## スカットボール

ボールをスタートラインからスティックで打ち、スカット



## ゲーゴルゲーム

ゲーゴル(スティック・ボール)またはゴルフ(パター・ボール)を使い、長方形の競技マットの上に2種類の得点ゾーンを設け、個人あるいは団体による競技者で、対抗形式によって行われる得点を競い合うゲーム



## バツゴ

離れて設置したプラスチックボードを目掛けて玉(ビーンバック)を投げる的入れゲーム



## 囲碁ボール

碁盤にみたてた目(穴)に、黒と白のボールをスティックで

打って五目並べの要領で並べて競うゲーム

## ミニテニスゲーム

ウレタン性のボールを使ってテニスのように打ち合うゲーム



## ドッチビー

ボールの代わりにディスク型をしたドッチビーを使ってドッチボールの要領で競うゲーム



## ディスクゲッター9

ディスク(ドッチビー)を投げて、数字の書かれたパネルを狙うゲーム



## 大型ジエンガ

サイコロを振って、出た色のブロック(ダンボール製)を抜いて上に積み上げていき、ブロックを崩したら負けとなるゲーム



## まんまりもボール

表面に柔らかい突起のあるゴムボールで、投げたり転がしたりと、使い方自由の万能ボール

## 前年度貸出ランキング ベスト3

第1位	ペタンク(室内用)
第2位	スカットボール
第3位	ユニカール グラウンド・ゴルフ

今年は、ディスクッター9と  
囲碁ボールがお勧めです！

## 利用者からの声

毎月、3～4種程のニュースポーツが体験でき、とても充実した余暇活動が過ごせています。また、職員・他者と楽しく交流が図れることと、リハビリの一環として運動に取り組めることが何よりです。



▲囲碁ボールを楽しんでいる様子

## ■ ニュースポーツ用具の無料貸出について

受付日時	月曜～金曜の9時～17時（祝・休日、年末・年始を除く。） 事前に当センターまで御連絡ください。
対象者	高齢者もしくは高齢者を主な対象としてニュースポーツを行う機関、団体及び施設等。地域活動や世代間交流としても御利用いただけます。
申込方法	利用の予約は、先着順です。直接当センターへ来所か電話にて受け付けます。貸出当日は、借用希望者が来所し「物品借用書」に必要事項を記入、押印のうえ貸出を行います。貸出期間は、原則として2週間以内とします。貸出及び返却時には、必ず用具の数量、状態について確認を受けてください。 ※「物品借用書」は当センターのホームページからもダウンロードできます。 <a href="http://www.okishakyo.or.jp/html/ikiiki/index.htm">http://www.okishakyo.or.jp/html/ikiiki/index.htm</a>
注意事項	第三者への又貸しを禁止します。また用具の紛失、破損等があった場合は同等品を弁償していただくことがあります。 用具は、より多くの方が気持ちよく使えるように大切に使用してください。
お問合せ先	沖縄県社会福祉協議会 いきいき長寿センター（担当：齋藤・仲宗根） 沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1 西棟3階 TEL：098（887）1344 / FAX：098（887）1349

No.	競技種目	競技日程	競技会場
総合開会式 9月25日(金) 9:30～10:10 県立武道館アリーナ棟(那覇市)			
【スポーツ交流大会】			
1	ラージボール卓球	9月25日(土) 10:30～17:00	県立武道館アリーナ棟(那覇市)
2	テニス	9月25日(土) 10:30～17:00	奥武山総合運動公園庭球場(那覇市)
3	ソフトテニス	9月25日(土) 10:30～17:00	奥武山総合運動公園庭球場(那覇市)
4	ソフトボール	9月25日(土) 9:00～17:00 9月26日(日) 9:00～12:00	桑江総合運動場(北谷町)
5	ゲートボール	9月25日(土) 9:00～17:00	具志川ゲートボール場(うるま市)
6	ペタンク	9月25日(土) 9:00～17:00	東風平運動公園多目的広場(八重瀬町)
7	ゴルフ	9月24日(金) 7:00～14:00	沖縄カントリークラブ(西原町)
8	マラソン	9月26日(日) 9:00～12:00	県総合運動公園内特設コース(沖縄市)
9	弓道	9月25日(土) 10:30～17:00	奥武山総合運動公園弓道場(那覇市)
10	剣道	9月25日(土) 10:30～17:00	県立武道館第二錬成道場(那覇市)
11	グラウンド・ゴルフ	9月25日(土) 10:30～17:00	奥武山総合運動公園陸上競技場(那覇市)
12	太極拳	9月25日(土) 10:30～17:00	県立武道館第一錬成道場(那覇市)
13	ソフトバレーボール	9月25日(土) 10:30～17:00	県立武道館アリーナ棟(那覇市)
14	ダンススポーツ	9月26日(日) 9:00～17:00	県総合福祉センターゆいほーる(那覇市)
15	ボウリング	9月25日(土) 12:30～18:00	サラダボウル(那覇市)
16	選層軟式野球	9月25日(土) 10:30～17:00 9月26日(日) 9:00～17:00	瀬長島野球場(豊見城市)
【文化交流大会】			
17	囲碁	9月25日(土) 17:00～17:00	県総合福祉センター501教室(那覇市)
18	将棋	9月26日(日) 17:00～17:00	沖縄市立中央公民館作法室(沖縄市)

高齢者に適したスポーツ、文化活動等を通じて健康の保持・増進と参加者相互の交流を図り、生きがいと健康づくりを進めることにより、明るく活力あふれる長寿社会づくりの促進に寄与することを目的に平成22年9月24日(金)から26日(日)までの3日間、奥武山総合運動公園を主会場に、県内各会場において18競技が開催されます。この大会は、次年度開催される「第24回全国健康福祉祭くまもと大



▲昨年度の総合開会式の様子

## 第2回 沖縄ねんりんピック スポーツ交流大会・文化交流大会

高齢者に適したスポーツ、文化活動等を通じて健康の保持・増進と参加者相互の交流を図り、生きがいと健康づくりを進めることにより、明るく活力あふれる長寿社会づくりの促進に寄与することを目的に平成22年9月24日(金)から26日(日)までの3日間、奥武山総合運動公園を主会場に、県内各会場において18競技が開催されます。この大会は、次年度開催される「第24回全国健康福祉祭くまもと大

# 赤い羽根共同募金運動がスタートします！

平成22年度目標額 2億2575万5000円

運動期間 10月1日～12月31日

皆様の温かいご支援、ご協力をよろしく願います

今年も赤い羽根共同募金運動が、厚生労働省の告示により10月1日から12月31日までの3カ月間にわたり「じぶんの町を良くするしくみ」をテーマに北海道から沖縄まで全国一斉に展開されます。

募金運動初日の10月1日には、全日空株式会社との協力により第49回「赤い羽根空の第一便伝達式」が那覇市のパレットくもじ前広場（午後12時）にて開催されます。

伝達式では、厚生労働大臣から県知事・那覇市長へ、中央共同募金会会長から沖縄県共同募金会会長・那覇市支会会長へそれぞれメッセージと赤い羽根が、全日空客室乗務員によって伝達されます。このあと、那覇観光キャンペーンレディなどが街頭募金を行い、道行く人々に協力を呼び



▲昨年度の「空の第一便伝達式」の様子

## 社会福祉法人 沖縄県共同募金会

TEL 098-882-4353 FAX 098-882-4270  
<http://www.okishakyo.or.jp/html/kyoubou/>

かけます。

また、この日は宮古・八重山地区でも、日本トランスオーシャン航空の協力により客室乗務員から県知事メッセージと赤い羽根が伝達されるほか、各支会・分会（市町村）でもそれぞれ募金の出発式が行われます。宮古地区

では、共同募金キャンペーン車輛パレードも予定されています。

今年度の募金使途計画は、在宅福祉事業など地域福祉活動を行っている市町村社会福祉協議会の活動費として1億4075万5000円（62・3%）、地域福祉活動団体の支援や民間社会福祉施設充実のために3897万円（17・3%）、その他全県的な福祉事業推進のために4603万円（20・4%）を配分する計画になっています。

## 平成22年

# 九州ブロックカントリミーティングin 沖縄

## 高齢者福祉・介護現場からの発信！

平成22年度九州ブロックカントリミーティングin 沖縄（主催…公益社団法人全国老人福祉施設協議会（以下全老施設協）等）が6月8日～9日の2日間にわたり、沖縄ハーバービューホテルクラウンプラザにて180名余の参加者を迎え開催された。

本大会は、「介護現場革命！新しい介護・明るい介護現場の担い手として」をテーマに九州各県の老人福祉施設関係者の次代を担う若手リーダーが一堂に会し、直面する諸課題に向けた議論を通して問題意識を共

有し、現場の声を発信することを目的として開催されたもの。



▲九州各県から180名余の参加者を迎え開催された。



▲街頭募金の様子



子どもと家族全体の幸せを

特定非営利活動法人  
こども家庭リソース  
センター沖縄

沖縄市に事務所を構える「特定非営利活動法人こども家庭リソースセンター沖縄」の奥座初美代表は00年に「保育サービスでいーだ」を立ちあげて以来、一貫して「子育て、家族支援」を実践してきた。

既存の保育サービスではカバーできない送迎を含む預かり保育や一時保育等を支援する「ていーだ」の活動実績は潜在的な保育需要の存在を証明し、03年、沖縄市に「ファミリースポーツセンター（ファミサポ）」が開所した。そして、現在までに県内12センター（14市町村）で実施され



▲集団託児事業の様子

る等広がりを見せている。

06年より、生活相談事業子育て相談担当を行ってきた「こども家庭リソースセンター沖縄」に名称統一し、翌年3月にはNPO法人の法人格を取得した。

リソースセンター沖縄は、「家族全体の幸せ支援」をキーワードに活動の幅を広げている。イベントや団体観光を対象とした集団託児事業をはじめ、家族・こども相談事業、高齢者等を対象としたファミサポ「生活介護事業」等である。子育て支援「ていーだ基金」事業では、ファミサポを利用したくても経済的理由等から利用が困難な家庭に対し利用券を支給し、親の就職活動や子どもの通園・通院を支援している。

制度の隙間を補うさまざまな事業展開について奥座代表は「こどもの問題の背景には家庭の問題があることが多い。だから家族全体を支える視点が重要なんです」と話す。そして、「家庭の孤立が問題を深刻化させてしまう。外部の助けを借りることで新しい風が家族内に流れる。」と活動の意義を強調した。

最後に、「NPOのもつ先進性、柔軟性を活かしつつ、『家族支援』という専門性を磨いていきたい」と今後の抱負について語ってくれた。

1日目は、全老協介護保険委員長梶田和平氏が情勢報告・課題提起を行い、キャリアパス構築の注意点や、介護職の医行為について解説した。

午後からは、経営分科会と介護分科会が6会場に分かれ、グループ討議が行われた。経営分科会では「介護保険制度内事業体として、2025年戦略を考える」をメインテーマに、介護分科会では、明るい介護現場づくりをメインテーマに活発な議論が交わされた。分科会の成果につ



▲基調報告を行う  
仲村博彦 全老協常任顧問



▲2日目の分科会報告の様子

いては、全体会にて報告され、参加者全員での共有が図られた。

2日目には、全老協常任顧問仲村博彦氏より基調報告が行われた。報告では介護分野の経済効果の試算を紹介し、これからの雇用は介護が主役を担っていくことを強調すると同時に、新しい公共の受け皿として「社会事業法人」構想が浮上していることを説明し、高い公益性と競争に耐えうる効率性を備えた事業体が求められているとの考えを示した。

最後に沖縄教育出版代表取締役社長の川畑保夫氏より記念講演が行われた。「一人ひとりのいのち輝く感動創造企業」と題した講演では、沖縄教育出版社の「日本一長くて日本一楽しい朝礼」の「ハッピー体操」を参加者全員で行うなど、和やかな雰囲気での講演となった。その中で川畑氏は、「仕事は義務や責任でするものではない。人の役に立つためのミッションとして仕事をすべきである。」「相手に喜ばれることを一生懸命やることが人生を豊かにする。」と述べ、記念講演を締めくくった。

## コミュニティソーシャルワーク 研究会が発足

—市町村協議会職員ら15名が参加—

沖縄県社協では、「コミュニティソーシャルワーク研究会」を立ち上げ、去る7月28日に第1回目の研究会を開催した。同研究会は、

市町村社協におけるコミュニティソーシャルワークの推進を目的として設置されたもの。地区担当職員を配置しコミュニティソーシャルワークに取り組んでいる市町村社協の職員と県社協地域福祉部職員、そして研究会のサポート役・幹事として、神里博武氏（かみざと 社会福祉研究所主宰）が加わり、計15名でスタートした。

初回の研究会では、各社協の



▲研究会では活発な意見交換が行われた。

取組状況の報告や今後の研究課題等について活発な意見交換が

社協）、副会長に石川健氏（八重瀬町社協）が選任された。

行われた。今後は、コミュニティソーシャルワーカーの専門性や小地域福祉活動とコミュニティソーシャルワーク等をテーマとして、2ヶ月に1回のペースで研究会を開催していく予定である。

## 高円宮妃久子殿下が御訪問 障がい福祉サービス事業所はごろも（宜野湾）



▲高円宮妃久子殿下（写真中央）との記念撮影

宜野湾市にあるはごろも福祉会「障がい福祉サービス事業所はごろも（島袋加代子所長）」

8月3日、高円宮妃久子殿下が御訪問された。

これは、美ら島沖縄総体2010への御来県にあわせて実現したものです。

スタッフによる事業説明の後、利用者による力

チャイシーと手話ソングの歓迎を受けるなど、殿下は楽しいお時間をお過ごしになりました。殿下からは「皆さん、がんばってお仕事してください。」と激励のお言葉をいただきました。

利用者の新川剛司さんは「緊張したけど、練習した踊りが間違わずにできてよかった。」と振り返り、同じく仲村恵子さんは「妃殿下にお会いできて感動しました。温かく見守ってくださいました。うれしかったです。」と話した。

## 総合福祉センターで救急法講習会

### 応急処置・AED操作方法を学ぶ

沖縄県総合福祉センターでは、8月9日に救急法講習会を開催



▲AEDの操作方法を学ぶ参加者

した。

これは、総合福祉センター入居団体の職員等を対象に毎年実施しているもので、今年は日本赤十字社沖縄県支部から救急法指導員の真喜志淳<sup>じゅん</sup>氏を講師に迎え、20名の参加者を得て開催された。

前半は実際に人形とAED（自動体外式除細動器）を使っての救命処置、心肺蘇生法のシミュレーションを体験した。

また、後半は応急処置としてけがの対処法について、包帯や三角巾を用いての止血や感染予防のポイントを学んだ。

参加した職員は「実際にAEDの操作手順に触れることができて良かった。機器の操作だけでなく、周囲の危険除去や協力要請も重要だと感じた。」と振り返った。

県総合福祉センターにはAED1台を配備しているほか、今回のような講習会を通じ職員の操作方法習得に努めている。

## いしみね地域福祉まつり

# 草刈りボランティア140人が汗

いしみね地域福祉まつり会場の環境整備に向けた草刈り作業が8月1日、多数のボランティアが参加して行われた。

会場となる石嶺児童園グラウンドには炎天下にもかかわらず朝早くから地域のボランティア、企業、PTA、福祉施設、行政関係者等が駆けつけた。また、今年から首里東高校、石嶺中学校、城北中学校の生徒も加わり、45団体から総勢約140名が汗を流した。

呼び掛け団体の「石嶺町北翔会」永山潔会長によると、草刈



▶大勢の参加者のもと2時間、わたり作業が行われた

清掃はおよそ16年前から毎年実施しているとのこと、石嶺地区の夏の風物詩として定着している「いしみね地域福祉まつり」に欠かせない活動となっている。

この活動について永山会長は、「企業や学校を含め色々な団体に呼び掛けていますが、地域の

皆さんが非常に協力的です。」と話した。

作業に参加した地元の高校生は「小さいころからまつりに来ていたが、ボランティアは初めて。こんなに大勢の人が関わっているとは思わなかった。」と振り返った。

このように多くの関係者の協力に支えられて、「第37回いしみね地域福祉まつり」は8月18日に盛会裏に開催された。

## 第6期委員長に竹藤氏

### 福祉サービス運営適正化委員会委員改選

福祉サービス利用援助事業の運営監視および福祉サービスの苦情解決事業を実施する機関として県社協に設置されている運営適正化委員会の12名の委員が、6月4日に開催した選考委員会（委員長 神里博武氏）による選考を経て選任された。（委員と所属部会は下表のとおり）

7月8日に開かれた第1回運営適正化委員会においては、県社協会長（代理 比嘉成和常務理事）から委嘱状が交付され、第

6期委員長に竹藤登氏、副委員長に福井彰雄氏が選出された。委員の任期は、平成24年6月28日までの2年間。



## 私たちが 広報委員です

本紙「福祉情報おきなわ」の発行に際しては、県社協および県共同募金会の職員で構成される広報委員会で記事内容を話し合っています。

読者から愛される紙面づくりを目指していますので、お気づきの点がありましたら、県社協総務企画部まで御連絡ください。



▶「ほっとニュースTOPPERS」では、読者からの情報提供をお待ちしています

分野及び委員氏名	運営監視部	苦情解決部
1. 社会福祉に関し学識経験を有する者		
公益代表		
・竹藤登（県社会福祉士会会長）	○	○
・福井彰雄（県介護福祉士会監事）	○	○
・山城真紀子（沖縄キリスト教短期大学教授）	○	○
・仲本しのぶ（市民介護相談員なは代表）	○	○
福祉サービス利用援助事業の対象者を支援する団体を代表する者		
・玉村安子（県手をつなぐ育成会副会長）	○	
・島田正博（県精神障害者福祉会連合会理事）	○	
福祉サービスの提供者を代表する者		
・崎山朝康（県老人福祉施設協議会副会長）	○	
・上間久男（県知的障害者福祉協会会長）	○	
2. 法律・財務会計に関する学識経験を有する者		
・喜多自然（沖縄弁護士会 弁護士）	○	○
・倉持輝幸（倉持輝幸公認会計士事務所公認会計士）	○	○
3. 医療に関し学識経験を有する者		
・大田裕一（平安病院院長）	○	○
・真栄平勉（県精神保健福祉士協会会長）	○	○

敬称略

# 求職登録者紹介システム (マッチングシステム) がバージョンアップしました!

求職登録者紹介システムとは沖縄県福祉人材研修センター無料職業紹介事業の求職登録者で、システムエントリーを希望される方の情報(個人情報を除く)を、同事業の求人事業所のみ閲覧可能な専用ホームページに掲載し、事業所からリクエストがあった求職者へ求人情報の個別提供をするシステムです。(登録、利用はすべて無料)

## 1 情報公開項目の追加

- ①居住地 ②所持資格 ③最終学歴 ④希望職種 ⑤希望分野 以上5項目に加え、  
⑥登録区分 ⑦性別 ⑧年齢 ⑨就業希望地域 以上9項目になりました。

登録区分	求人票番号	性別	年齢	居住地域	福祉系所持資	その他所持	最終学歴	希望職種	希望分野	希望地域	選択
学生	0909-000××	女	22	中部	社会福祉士見込み、社会福祉主事見込み	普通自動車免許	高卒	相談・支援・指導員	高齢者(介護保険施設)	南部、中部	<input type="checkbox"/>

## 2 利用対象範囲の拡大

社会人のみを利用対象としておりましたが、学生(最終年度)についても利用可能となりました。

## 3 検索機能の強化

検索のカテゴリーの追加等により、的確なスカウトが可能となりました。

- ▶ 本システムの利用を希望される求職者、求人事業所は下記までお問い合わせ下さい。  
**問合せ先・連絡先** (沖縄県福祉人材研修センター TEL 098-882-5703 当山・城間)

福利厚生センターを  
活用して  
職員の職場定着を

福利厚生者の充実には職員の就業意欲を高め定着を図るうえで大きな要因の一つとなります。本センターでは全国規模のスケールメリットを活かして、多彩なメニューを実施しております。

### 【会員交流事業】

今年度は12事業あり、近々の目玉として「マツスルミュージカル2010」および「佐渡裕シエナウインドオーケストラ」の御案内を予定しています。

### 【県内の加入状況】

加入法人数が111法人、会員数が2757名。

### 【加入方法】

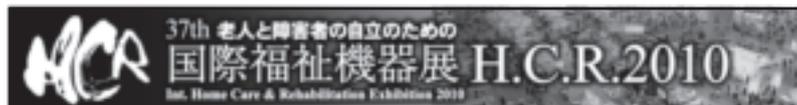
随時申請することができます。資料請求は事務局まで御連絡ください。

### 【事務手続きの簡素化】

各種記念品がホームページから簡単に申請できるようになりました。

### 【問い合わせ先】

098-882-15703  
福利厚生センターおきなわ事務局



**会期** 2010年9月29日(水)~10月1日(金)  
**開場時間** 10:00~17:00  
**会場** 東京国際展示場「東京ビッグサイト」(東京・有明)  
**入場料** 無料・登録制(一部のプログラムは有料)  
**出展** 16か国・地域490社より約20,000点の福祉機器を総合展示  
**WEBサイト** <http://www.hcr.or.jp>

H.C.R.2010事務局 〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル (財)保健福祉広報協会 Tel. 03-3580-3052/Fax. 03-5512-9798

### ●内容

- 福祉機器約20,000点を総合展示
- 国際シンポジウム「欧州の医療制度改革の動向と評価」(30日)
- ふくしのスキルアップ講座: 保健・福祉・介護をテーマに連日開催。
- 障害児のための「子ども広場」: 子ども用福祉機器相談・療育相談も実施。
- 福祉機器・リハビリ・自助具の相談コーナー
- 福祉機器開発最前線
- 腰痛予防対策と福祉機器
- 身近な機器をつかったコミュニケーション
- 高齢者の日々の生活を便利にする道具やグッズ  
その他

※プログラムは変更されることがあります。最新情報と詳細はH.C.R.Web(<http://www.hcr.or.jp>)サイトでご確認ください。

# 認知症特別講演会

「介護の日」を記念して県内各地で認知症に関する講演会を実施します。

## 本島地区開催

日時 11月11日(木)  
15時～17時  
会場 浦添市てだこホール  
大ホール  
演題 「若年性認知症・本人と家族を地域で支える」  
～住み慣れた町でみんないきいき元気～

講師 認知症介護研究・研修東京センター研究部副部长  
永田久美子氏

入場料 無料(要申込)  
対象 一般県民・介護従事者  
申込先 県介護実習・普及センター  
098-882-1484



▲ 永田 久美子 氏

## 先島地区開催

演題 「認知症老人ケア」  
講師 生活リハビリ研究所長  
三好春樹氏  
入場料 無料(要申込)  
対象 一般県民・介護従事者  
申込先 県福祉人材研修センター  
098-882-5703

【八重山地区】  
日時 11月2日(火)  
18時30分～20時30分  
会場 石垣市健康福祉センター  
集団検診ホール

【宮古地区】  
日時 11月3日(水)  
14時～16時  
会場 JAおきなわ宮古地区本部  
2階大ホール



▲ 三好 春樹 氏

## 「介護の日」について

厚生労働省は、介護について理解と認識を深め、介護従事者、介護サービス利用者および介護家族を支援するとともに、それらを取り巻く地域社会における支え合いや交流を促進する観点から、高齢者や障害者等に対する介護に関し、国民への啓発を重点的に実施するための日として、「11月11日」を「介護の日」と定めています。

「11月11日」を「介護の日」とする理由として、意見募集で最も支持が多かった「いい日、いい日、毎日あったか介護ありがとう」を念頭に「いい日、いい日」にかけて覚えやすく、親しみやすい語呂合わせとなっています。

## 福祉用具とは

福祉用具の研究開発及び普及の促進に関する法律の第2条で「福祉用具とは、心身の機能が低下し日常生活を営むのに支障のある老人または心身障害者の日常生活上の便宜を図るための用具およびこれらの者の機能訓練のための用具ならびに補装具という」と規定されています。また、より多くの人々に福祉用具を知っていたく機会として、毎年10月1日を「福祉用具の日」と定めています。

沖縄県介護実習・普及センターでは福祉用具の展示・紹介や身体状況に応じた福祉用具の相談に応じていますので、お気軽に来所または御連絡ください。

## 介護従事者対象講座のご案内

### 介護講座

### 第2回 SKILL UP

- ① 11/19(金) 午前  
「高齢者疑似体験」
- ② 11/19(金) 午後  
「立ち上がりの自立と介助」
- ③ 11/26(金) 午前  
「起居の自立と介助」
- ④ 11/26(金) 午後 「食事編」
- ⑤ 12/3(金) 午前 「着脱編」
- ⑥ 12/3(金) 午後 「入浴編」
- ⑦ 12/10(金) 午前 「排泄編」
- 12/10(金) 午後 「住宅改修編」

※申し込み受付開始日は、  
平成22年10月19日(火)午前9時から  
となっております。

※定員に達し次第締め切らせていただきますので、ご了承ください。

# 第53回 沖縄県社会福祉大会

10月26日(火)  
開催

10月26日(火)、沖縄コンベンションセンターにおいて「第53回沖縄県社会福祉大会」を開催します。今回の記念講演には、脚本・演出



▲昨年の大会の様子

## ホントにおすすめの本 ～ライブラリー新刊紹介～

『オトコの介護を生きるあなたへ  
男性介護者100万人へのメッセージ』



この本には、全国から寄せられた男性介護者の介護体験記が数多く掲載されています。

慣れない家事やうまくいかない介護、男性ならではの葛藤や悩み、また

介護を通して得た喜びや希望などが赤裸々に綴られており、これまであまり注目されなかった「男性介護の実態」に迫った内容となっています。

今、まさにひとりで悶々と悩んでいる”あなた”へのメッセージやエールがぎゅっと詰まった一冊です。

社会福祉ライブラリー（総合福祉センター東棟2階）で貸出ししています。

著者：男性介護者と支援者の全国ネットワーク編  
発行：株式会社クリエイツかもがわ  
出版年月：2010年4月 定価：1,500円

- ▼日時 平成22年10月26日(火)  
午後1時半開会
- ▼会場 沖縄コンベンションセンター劇場棟
- ▼式典 県知事表彰、大会長表彰等
- ▼記念講演 演題 (調整中)  
講師 平田大一氏  
参加費 無料
- ▼主催 沖縄県、沖縄県社会福祉協議会、沖縄県共同募金会

# 第13回 芸能チャリティー公演

11月6日(土) 那覇市民会館

「社会福祉活動資金づくり・第13回芸能チャリティー公演」が左記の日程で開催されます。詳しいお問い合わせは県社協総務企画部までご連絡ください。

- ▼日時 平成22年11月6日(土)  
(昼の部)午後1時半開演  
(夜の部)午後6時開演
- ▼会場 那覇市民会館大ホール
- ▼入場料 前売 1,500円  
当日 2,000円

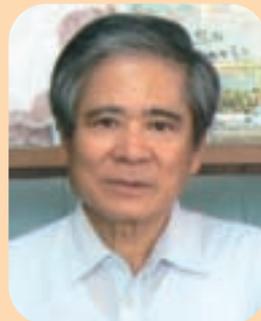


▲多彩な演目をお楽しみいただけます

## 寄付・寄贈者芳名 (7月1日～7月31日まで)

- 九州納豆組合 様
- 全労済沖縄県本部 様
- 沖縄県医薬品小売商業組合 様
- 喜友名朝春 様

# 表紙の写真 作品名 「幻想」



撮影者 儀間朝義さん(那覇市在)

この作品は、かりゆし長寿大 学校第19期卒業生の儀間朝義さんが、在学中に平和通り商店街で目にとまった看板を撮影したものです。

6人いるお孫さんの成長をカメラに収めようと、かりゆし長寿大 学校では写真クラスを選択し、撮影のいろはを学んだそうです。

卒業後も向学心は衰えず現在はパソコン教室に通っています。デジタルで撮影した写真をパソコンで編集して年賀状を自作する日も近いかもしれません。

## 編集後記

広報取材を担当すると、様々な出会いがあって楽しいです。あなたともいつかお会いできる日が? (伊)